

ヒアリング、ワークショップ等の 実施について

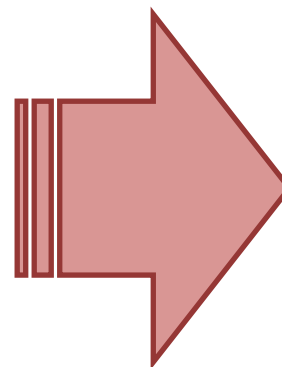
当事者、関係者へのヒアリングについて

1. ヒアリングの趣旨について

- 子ども・子育て支援事業計画の策定に当たっては、ニーズ調査を実施して、子育て家庭における施設の利用ニーズや子育て環境について把握することになっている。
- しかしながら、このニーズ調査の対象とならない方々や定型的な調査で把握することが難しい個別のニーズがあることなどに考慮する必要がある。
- 様々な子育て中の当事者・関係者の直接の声をお聴きし、本市の課題把握や今後の取組の検討につなげていき、本市の施策や計画に反映させていく。
- 本市では、次世代育成支援後期行動計画の策定時においても、ヒアリングを行っており、このような取組みは、今回の新たな計画策定にあたって、継続すべき取組みと考える。

ニーズ調査
(対象: 就学前児童、小学生)

当事者、関係者へのヒアリング
(対象: 妊婦、外国人、中高生など)



本市の施策や計画
に反映

今回実施するヒアリングの実施方法などについて①

1. 実施時期について

- ・平成25年10月から12月までの間で、実施を予定。

2. ヒアリングの対象・実施方法等について（実施方法については詳細調整）

対象者像	目的	実施方法
妊娠中の方	ニーズ調査の対象外であり、育児休業、出産後のこと等について伺う	マタニティセミナー参加者へのヒアリングを想定
子育て中の外国人	定型的な調査票では把握できない子育ての現状やご意見等を伺う	保育所等を通じてヒアリングを想定
一人親家庭の保護者	定型的な調査票では把握できない子育ての現状やご意見等を伺う	保育所等を通じてヒアリングを想定
障がいのある子どもの保護者	定型的な調査票では把握できない子育ての現状やご意見等を伺う	支援団体又は施設を通じてヒアリングを想定
中学生、高校生	ニーズ調査対象外であり、次代の親となる子ども達に伺う	わくわくコミュニケーション授業等の機会を利用して、ヒアリングを想定
幼稚園教諭、保育士	ニーズ調査対象外であり、現場の先生から見た子育て家庭について伺う	ご協力いただける幼稚園、保育所へ出向いて、ヒアリング実施を想定

※スケジュール等が決まり次第、委員の皆様にご案内し、委員がご希望をされる場合には、ヒアリングの同行も可能。
（協力いただく施設等との調整により、対象者によっては、ご同行いただけない場合も有り。）

今回実施するヒアリングの実施方法などについて②

3. ヒアリングの調査項目について

妊娠中の方

- ・現在の就労状況
- ・育児休業の取得予定
- ・育児休業に関する要望
- ・出産後の就労希望
- ・将来の子育てに関する期待や不安
- ・理想とする子育て環境 など

子育て中の外国人

- ・桑名(日本)は子育てがしやすいか
- ・地域とのつながりの有無
- ・相談相手の有無
- ・子育てに関する期待や不安
- ・希望する子育て支援
- ・子育て情報の入手方法など

一人親家庭の保護者

- ・地域とのつながりの有無
- ・相談相手の有無
- ・子育てに関する期待や不安
- ・希望する子育て支援
- ・子育て情報の入手方法など

障がいのあるこどもの保護者

- ・地域とのつながりの有無
- ・相談相手の有無
- ・子育てに関する期待や不安
- ・希望する療育や子育て支援
- ・子育て情報の入手方法など

中学生、高校生

- ・小さな子どもと接する機会があったか
- ・子どもは何人ほしいか
- ・理想の親像(「こんな親になりたい」など)
- ・桑名に住み続けたいか
- ・結婚に対する願望 など

幼稚園教諭、保育士

- ・子どもたちの育ち等を通して感じること
- ・園児の家庭環境等について感じること
- ・理想とする子育て環境
- ・現場における課題など

ワークショップ等の開催について

1. ワークショップ等の趣旨

- 広く市民の参加を呼び掛け、子育てに関わるテーマについて意見交換を行い、本市の課題点や有効な取組みについて検討する場とする。
- 子育て中の保護者同士等の交流や情報交換の場としても、活用していただきたいと考える。

2. 実施時期について

- ・平成25年11月以降を目途に実施を予定。

3. 実施方法等の案について(詳細については詳細調整)

○ 子育て中の父親との座談会を開催

⇒参加者同士、子育てを通して感じること、必要な子育て支援などについて、父親の視点から意見交換を行う。

○ 桑名(旧市)地域、多度町地域、長島町地域にてワークショップを開催

⇒子育て中の保護者や子育て支援に関わっている方、関心のある方などを対象として想定。
広く市民に参画していただくよう呼び掛けていきたい。



参 考

(次世代育成支援後期行動計画策定時
におけるヒアリングについて)

次世代育成支援後期行動計画策定時におけるヒアリングについて①

1. ヒアリングを実施した団体等

- ・ 国際交流市民アドバイザー委員会支援者および外国人
- ・ シルバー人材センター学童保育担当者
- ・ 子育てサークル
- ・ 放課後児童クラブ（代表者・指導員会）
- ・ ひとり親家庭の保護者（※ 公立保育所を通じて）
- ・ 主任児童委員
- ・ 勤労青少年ホーム利用者
- ・ マタニティ教室参加者

2. ヒアリングの概要について

(1) 子どもを守る医療体制について

- ・ 病気の時に医療機関にかかれるか心配である
- ・ アレルギーなど健康について心配である

(2) 子育て支援サービスについて

- ・ 将来働くときに預けるところが心配
- ・ 産休明けに保育園を利用する時、近くの希望する施設に行けるか不安
- ・ 実家が遠く、近くに預ける所がなく、もしもの時に不安だ
- ・ 時々、息抜きがしたい。少しの間、子どもを預かってくれると良い
- ・ 自分が病気になったときに困る
- ・ 子どもが病気になったとき、きょうだいの送迎などに困る
- ・ 子どもの病気の時には仕事を休まなければならない
- ・ どの保育園・幼稚園に、いつ入れようか迷う

(3) 情報提供・相談体制について

- ・ 情報提供や行事への誘いは、半強制的なぐらいが良い
- ・ 市の制度に関する情報が少ない
- ・ アパート住まいで自治会に入っていない人などには情報が伝わりにくい
- ・ 必要な情報はインターネットで調べたり、産婦人科の看護師に聞いたりしている
- ・ 気軽に相談できる場がない
- ・ 成長・発達の過程にあった相談ができる場がほしい
- ・ 転入者に対する情報提供の充実を望む
- ・ さまざまな場に出てこられない人には、電話で接触している

次世代育成支援後期行動計画策定時におけるヒアリングについて②

2. ヒアリングの概要について(つづき)

(4) 子育て支援拠点について

- ・子育て支援の拠点を整備すべき
- ・仲間づくりの場が少ない
- ・人と関われる(つながる)きっかけをつくってほしい
- ・はじめの一步を踏み出せるようなイベント等があると良い
- ・園庭開放などに出てこられない人がおり、どう呼びかけるかが課題である

(5) 特別な支援を要する子どもへの対応について

- ・母子家庭は経済的不安がある
- ・父親のみでも子育てしやすい環境を
- ・父子家庭への手当も必要
- ・外国人の場合、生活のさまざまな場面で言葉がハンディキャップとなっている
- ・子どもは友人にお金を払って試してもらっている
- ・外国人の子どもへのサポートシステムを作るべき

(6) 仕事と生活の調和について

- ・結婚してもフルタイムで働きたいが、家事との両立は難しいと思う
- ・子どもができたなら育児休業を利用してもとの職場に戻りたい
- ・出産後も仕事をしたい
- ・夫が仕事を頑張っている姿を見ると、家事をしてほしいと言い出せない

(7) 子育てに配慮した生活環境について

- ・バリアフリー化が進んでいない所がある
- ・雨の日のベビーカーは屋根がないと困る

(8) 市民が主体となる次世代育成について

- ・子どもを注意するような場面に出会った時、顔見知りになるとしやすい。
- ・親でない地域の人に注意されることに意味がある
- ・個人情報得られないので活動しにくい
- ・学校を中心に守秘義務のある者同士の小さな単位で協働し情報を共有している
- ・知識ばかりがあふれて、自信をなくしている。日常的な交流、信頼関係をつくることから始める必要がある

次世代育成支援後期行動計画策定時におけるヒアリングについて③

2. ヒアリングの概要について(つづき)

(9) 地域における安全・安心の居場所について

- ・子どもは放課後児童クラブに通うことにより社会性や自主性を身に付けていく。学ぶことが多いはず
- ・幼稚園も放課後児童クラブを利用できると良い
- ・学校の空き教室などを利用して放課後児童クラブができないか
- ・放課後児童クラブが19時までだと良い ・長期休暇中に放課後児童クラブを利用したい
- ・放課後児童クラブの利用料を抑えて、負担を軽減すべき
- ・小学校も放課後利用できるようにすべき ・身近な遊び場所がない
- ・公園に行っても人がいない ・公園は、ボール遊びができないなど制約が多すぎる
- ・日中使われていない施設を利用して中高生の集いの場に
- ・児童館があれば良い ・児童館の整備が進んでいない
- ・児童館については、ハードよりスタッフが重要である
- ・夏休み等の子ども過ごし方を考えると、児童館が必要 ・児童館は小さくても必要
- ・児童館にいる人や環境が大切 ・子どもを連れていけるお金のかからない施設があると良い

(10) 地域で子育てを支える人材について

- ・地域に高齢者が増えてきた。時間のある人が活動できるようにしていくべきだ
- ・子育ての大変さはよくわかるので、少しでも役に立ちたいという気持ちから子育て支援活動に参加した
- ・夫が退職して自由な時間ができた。保育士の経験を生かすために子育て支援活動に参加した
- ・女性が仕事をしながら子育てできる社会をつくりたいという思いから子育て支援活動に参加した